メアリン隊じゃないから

小町通り編　　by うさお

小町通りは鎌倉の駅前から鶴岡八幡宮の入り口に至る若宮大路参道の裏側にある通りだ。結構TICAさんもお好きなようで、床屋さんの生首事件を探訪に行かれましたね。昨年だったかCaccoがS君所縁のお店があるとのことで行ったものだ。小町通りには2002年にも行っているので、その辺りの景色も押さえておきたいと思います。鎌倉駅東口を降りると、すぐにロータリーがあ

り、左手に曲がっていくと赤い鳥居のある小路があり、そこが小町通りだ。

うさおが大学時代から漫画の同人で付き合った友が雪の下に住んでいて、あの当時、映画のカメラマンに憧れていた**うさお**はアルバイトで稼いだ金を8mm映画の機材に注ぎ込み、鎌倉をロケ地として小品を撮っていた。脚本、監督、カメラマンを担当したが、実際にしたかったことは、NHKのようなカメラワークや玄人ぽい映像編集、凝ったタイトル技術を駆使することだった。　ストーリーや俳優は二の次だったのだが、そんなことはおくびにも出さず、漫画「PESO」やSFの同人「綾の鼓」のメンバーの中から、スタッフ、キャストを集めた。主役の娘は上智大学の演劇部、それ以外に日立電子のOLさん、元の会社の当時新入生男子などなど。話を戻すが、鎌倉からは相沢君というロックかぶれの男子（いつも下着を着ないで胸をはだけていた）と、清田さんという落ち着いた雰囲気の美人さん（後で聞いてみると自分と同い年だった。愕然）がいた。相沢君は鎌倉駅近くの相沢ジュエリィの御曹司、清田さんは同じく駅近くの清田ビルのオーナーの娘であった。

もともと鎌倉に住んでいたK君（映画作りに情熱を傾けてくれた）も親父さんは土地の名士らしく市役所にお勤めであった。趣味で絵画もなされており美術年鑑に作家としての評価額が記載されていた。K君は漫画を諦め後に市役所のお役人になった。相沢君は残念なことに若くして亡くなられた。これらのスタッフ、キャストメンバーがその当時として、良いお家柄で金持ちの子息、子女が多かったのには恐れ入った。お金や頭など色々なことで不自由していた**うさお**は、日活や東宝の映画に出てくるような生活をしている人たちがいるというのも初めて知った。会社の新入生も実家は静岡で美術履物問屋を営んでおり、輸出も手掛けていたので年間数億円の売り上げがあったそうな。彼の実家に行ってその広さにびっくりした。兎に角も**うさお**も若い時は鎌倉に遊びに行くこともあったってこと、多少、友人たちの家柄、財力に劣等感に悩まされながらではあったが・・・。う～む、良い思い出じゃったのう。（雲じいじゃ！）

さて少し小町通りのお店を紹介しましょう。**うさお**が若かりし頃のブラスリィ喫茶「ラパン」はもうこの辺りで見つけることは出来なかった。「ラパン」は夜になると「PLAYBOY」誌で有名なウサギのマークが店の壁に浮き上がり、退廃的な文化観を感じていたよ。

さてここ「鳥小屋」は鎌倉コロッケで有名なところ。鎌倉コロッケ？この日はとても暑い日だったので、いくら揚げ立てほかほかでも食指は動かなかったよ。コロッケ1個200円です。

お店の看板に人形が載っているのは、「鎌倉五郎半月」というお菓子屋さんです。ここの銘菓は「うさまん」と言う可愛らしいもの。もちろんこれはゲットしました。

「壺佳華」と書いて「こかげ」と読む。かき氷と書いてあるのでCaccoに頼み込んで入らして頂いた喫茶店。

中は思ったより広くて吃驚です。店のインテリアとしてアンティークが並んでおり、古都鎌倉を漂わせているってえ寸法だ。だがね。

壁や天井の材料がチープなので、これらのアンティークがやたら物悲しく、寒々とした感じを与える。行ったのが夏でしたからこれで好いんですけどね。店の外観や外から見たお店の中が如何

にも鎌倉っぽいのでつい入っちゃいました。

店の中は冷房をガンガン掛けていましたので、かき氷を食べると流石の**うさお**も内と外からの冷却に、がくがくとロボットのような動きになってしまった。まるで「喰いたん」の作者のようだ。

テーブルも壁も昔懐かしいデコラ貼りで場末のラーメン屋さんのようだったよ。

ここが今回のCaccoのお目当てのお店、古美術「さくらい」。前にもこれはCaccoが書いておりますので省略しますが、中は薄暗く趣味でお店をやっているような女主人でした。

お店の前は沢山の人が通りますが、このお店に入っていくのは私達だけです。年間売上700万円以上がないとお店を維持できないのではと人事ながら心配しました。

最近の名所旧跡には人力車のサービスが欠かせません。浅草でも神楽坂でも横浜の馬車道でも商売しています。

こんな夏の暑い日にも人力車に乗るカップルが多かったです。でもエアコンは入っていないし、凄く茹だっちゃうと思うのだがみんなにこにこしていましたね。

車夫さんはものの見事に汗だくで、明治の時代のようなどんぶりにぱっちではなく、アスリートのようなウェアでスピード社製かと思わせるものでした。

お次は「鎌倉点心」。何でも鎌倉が付くね。ここの名物は豚まんじゅう。

お店に外部の仕切りはなく、熱い空気が入り放題、それでも若い人はそんな暑さにもめげず、豚まんじゅうを頼んでいました。

ここお店はもう鶴岡八幡宮のすぐ近く、

公営駐車場の裏手辺りで車で来る人には便利なお店です。お店の前に並んでいるトンちゃん達が少し可愛いが、同時に浅草あたりのお店と同じ匂いがするのは何故だろう。

ここでもアイスクリームを食べたかったが、さっき、かき氷を食べたばっかり。ポンポンを痛くするから、止めておきました。ブウブウ。

この猫は「鎌倉茶近」のろくでなし猫。由来は足の下の紙に書いてあったようだが、とても暑くて読む気も起きやしない。

ここのお店で扱っているのは、串団子。ついそこの路地で「白子丼」を頂いて来たばかり。そんなに食えやしません。鎌倉のアッピール媒体が、うさぎ、豚、猫と動物尽くしなのが少し気になるところ。鎌倉の人はペット好きなのか？何方かの解明を待ちたい。

白波五人男の弁天小僧菊之助は、ここ鎌倉由比ヶ浜が舞台。歌舞伎の台詞じゃないけれど、さてドン尻に控えしは「喫茶IWATA」だあ。

「喫茶IWATA」を撮る振りをして、このお姉ちゃんを撮りましたら、まるっとお見通しだったようで、御覧のように睨まれちゃいました。

ごめんねです。

「喫茶IWATA」には中庭がありそれを取り囲むようにサンルームがあり、ここを陣取るのが通だ。

「喫茶IWATA」の名物は分厚いホットケーキです。二段重ねでしかもずしっとした重量がある。御覧のように総厚5cmは優にあるだろう。うさおもそうだが、学生の頃を懐かしんでこのホットケーキを頼んでいる老人たちが多い。(うさおもそうだが）その多くが完食出来ずに轟沈している。うさおは死ぬ思いだった。いや、死んでいた。

参考文献：白波五人男

「知らざあ言って聞かせやしょう　浜の真砂と五右衛門が歌に残せし盗人の、種は尽きねえ七里ヶ浜、その白浪の夜働き、以前を言やあ江ノ島で、年季勤めの稚児が淵、百味講で散らす蒔き銭をあてに小皿の一文字、百が二百と賽銭の，くすね銭せえ段々に、悪事はのぼる上の宮、岩本院で講中の、枕捜しも度重なり、お手長講と札付きに、とうとう島を追い出され、それから若衆の美人局、ここやかしこの寺島で、小耳に聞いた爺さんの、似ぬ声色でこゆすりたかり名せえゆかりの弁天小僧菊之助たぁ俺がことだぁ！」